

豊岡市（兵庫県）

【自治体のあらまし】

豊岡市は、平成17年に1市5町（豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町）が合併したことにより、人口8万人強、兵庫県内で最も面積が大きい自治体となった。市域の約8割を森林が占める豊かな自然環境に恵まれ、半世紀以上に渡りコウノトリの野生復帰に取り組んでいる。

全国的に有名な城崎温泉を始め、西日本屈指のスキー場である神鍋高原スキー場、但馬の小京都と名高い出石城下町を有し、年間の観光客は400万人を超える。地場産業としては、国内最大産地のかばんや出石焼の生産が行われている。

人口 83,832人(平成29年2月28日現在)

【文化芸術創造都市への代表的な取組】

少子高齢化による人口減少や、合併後の文化的アイデンティティの形成という課題を有しているが、ローカルで固有な文化資源を再発見し、文化芸術を媒介とすることにより、新たな文化の創造・発信を図り、「小さな世界都市」を目標とした文化政策を展開している。

文化芸術による地方創生の中核拠点として、平成26年4月には「城崎国際アートセンター」を開設し、同施設や豊岡市民プラザ、出石永楽館なども活用しながら、「豊岡アートシーズン」、「豊岡エキシビション」をはじめとする地域の個性を輝かせることを目指した事業を広く展開している。また、演劇的な手法を取り入れたワークショップ型、双方向型のアクティブラーニングを用いたコミュニケーション教育を推進している。

●城崎国際アートセンター

平成26年にオープンした舞台芸術を中心とした「アーティスト・イン・レジデンス」の拠点施設で、城崎温泉街に位置する。1つのホール、6つのスタジオ、22名が滞在可能なレジデンスで構成され、公募を経て選考された世界中のアーティストやカンパニーが滞在制作を行う。滞在期間中には無料の地域交流プログラムを実施し、市民との交流を図る。

豊岡市の未来を担う子供たちが、制作過程も含めて世界の最先端のアートに触れ、豊かな想像力を育み、「小さな世界都市」を創造する主体となることを目指している。



城崎温泉ダンス旅+ダンサーを探せ！

in 城崎温泉の様子

(2015年10月 ©igaki photo studio)



城崎国際アートセンター外観・ホール ©西山円茄

●出石永楽館の再生

平成 17 年に合併した旧出石町にある近畿最古の芝居小屋であり，明治 34 年の開設時から歌舞伎，新派劇，寄席等を上演し，但馬地域の大量文化の中心として人々の娯楽の場ともなっていた。

昭和 39 年にいったん閉館したが，住民による復原運動が展開され，平成 20 年に市による大改修が完了した。これにより，舞台機構が最も充実していた大正期の姿に復原され，多くの住民が伝統芸能や芸術文化に親しんでいる。

出石城下町地区は市の景観形成重点地区（63.2ha）に指定されており，その中心部（23.1ha）は平成 19 年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され，行政・住民・関係団体が一体となって，歴史ある城下町を活かしたまちづくりに取り組んでいる。



出石永楽館 内観



永楽館歌舞伎公演中の外観

●豊岡アートシーズン 2016

平成 28 年に，市内の様々な文化・観光資源を通じて豊岡の魅力を再発見することを目的として始められたアートフェスティバル。

7 月から 11 月までの期間中は，市内の文化施設において，ダンス，演劇，コンサート，展覧会など多様なプログラムが展開され，訪れる人々に豊岡が誇る文化芸術との出会いを促す取組となった。



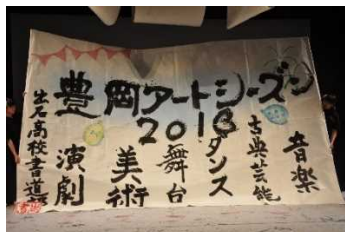
ロゴマーク



豊岡アートシーズン 2016

キックオフイベント

「とよおかアート縁日」の様子



「とよおかアート縁日」で

行われた地元高校生による

書道パフォーマンス